

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

であい ふれあい ひびきあい
 ○基礎・基本の確かな定着を図り、自ら学び続けようとする子を育てます。(知)
 ○人権教育を推進し、みんなが安心して豊かに生活しようとする子を育てます。(徳)
 ○自らの健康や安全に関心をもち、健やかでたくましい体をつくろうとする子を育てます。(体)
 ○家庭・地域・学校が連携を深め、地域・社会に積極的にかかわろうとする子を育てます。(公)
 ○様々な人とのふれあいを通して、自らの考えや視野を広げようとする子を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈言語能力〉	具体化した資質・能力
〈自分づくりに関する力〉	伝える内容を明確にする力 感じたこと、考えたことを言葉にする力 主体性・積極性

中期取組目標

○一人ひとりの思いを大切に、多くの人のかかわりや体験的活動を通じた主体的な学びの充実を図ります。
 ・一人ひとりが自分の思いを表現できる授業づくりを推進します。
 ・地域や家庭、関係諸機関と連携し、いろいろな人のかかわりから、自他のよさをとらえる力を育みます。
 ・学習経験や体験活動を活かし、自ら課題解決する力を育てます。
 ○自らの健康や安全に関心をもち、健やかでたくましい心と体づくりの充実を図ります。
 ・仲間づくりを通して、互いのよさを認め合い、楽しい学校生活が送れるようにします。
 ・体力アップ活動を通して、自分の体力を向上させようという意欲を高めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
主体的な学び	①教育課程全体で育成をめざす資質・能力を明確にした授業づくりをする。学習計画を明確にし、児童が主体的に学習を進めることができるようにする。②重点研究テーマを「主体的に問題解決に取り組み、分かる喜びを得られる子の育成」とし、算数科を中心に、児童の主体的な学びを追究する。
担当	学力向上委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
令和3年度横浜市学力・学習状況調査(予備調査)では、学年により若干の差はあるものの、おおむね横浜市の平均の学力を示していると言える。

(2)これまでの学校の取り組み状況
週2~3回、朝の15分間を学習の定着を図る時間として設定してきた。

今年度の目標

主体的に問題解決に取り組み、分かる喜びを得られる子の育成
~課題、振り返り、評価を意識した授業づくりのあり方~

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 重点研究として算数科に取り組み、「主体的に問題解決に取り組み、分かる喜びを得られる子の育成~課題、振り返り、評価を意識した授業づくりのあり方~」を研究主題として、各ブロック3名ずつ研究授業を行う。
- 横浜市学力学習状況調査の結果を分析したことを研究授業に生かしたり、学年で事前研究を授業を通して行ったりし、どの学級でも授業改善が行われ、またその経緯を通して学年やブロックで研究を深め、重点研究として教職員全体で研究を推進する。
- 水曜日を午前中5時間(5時間目を30分間授業)とし、5時間目に学習の定着、習熟できる学習活動を行う。

下半期

- 上半期に続き、重点研究として算数科に取り組み、「主体的に問題解決に取り組み、分かる喜びを得られる子の育成~課題、振り返り、評価を意識した授業づくりのあり方~」を研究主題として、各ブロック3名ずつ研究授業を行う。
- 横浜市学力学習状況調査の結果を分析したことを研究授業に生かしたり、学年で事前研究を授業を通して行ったりし、どの学級でも授業改善が行われ、またその経緯を通して学年やブロックで研究を深め、重点研究として教職員全体で研究を推進する。
- 水曜日(5時間目を2モジュール30分授業)の5時間目に学習の定着、習熟できる学習活動を行う。特に高学年は、児童自身が計画を立てて学習する時間となるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①道徳の授業を要として学校の教育活動全体を通して行う道徳教育を推進し、豊かな心を育てる。②年間を通してスマイル班活動の充実を図り、人とかかわりの中で自他のよさに気づき互いに認め合い、思いやる心を育てる。
担当	豊かな心委員会

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
本校は、「黄色いベスト(登下校の見守り活動)」「スマイルボランティア会」の取組など、地域や保護者の方々と連携をして、子どもを育てようとする環境がある。こうした温かい環境の中で育っている子どもたちは明るく素直に毎日の学校生活を送っている。しかしその一方で、「自分のよさを進んで出していこう」「進んで周りの人にかかわっていい」という自信や主体性が足りないと感じられる。子どもたちが、多くの人々とかかわりや豊かな体験を通して、自分をとりまく人々と積極的にかかわりを持ち、自分のよさを進んで出すとともに、互いのよさを認め合おう、高め合おうとすることができる子どもたちを育てていきたいと考える。

(2)これまでの学校の取り組み状況
道徳科の教材を活用して週1回の道徳の授業を行ってきた。令和3年度は、道徳の授業公開を行う予定だったが、新型コロナウイルスの状況から行うことができなかった。
状況を見ながら、体験学習やスマイル班活動を工夫しながら行ってきた。

今年度の目標

①子どもの実態をもとに道徳教材を活用し、授業公開を行う。
②体験学習やスマイル班活動の充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 学校公開では、道徳の授業を家庭・地域に公開する。
- ホームページなどでは、子どもたちの「ふれあい」を通じた声を掲載し、地域・家庭の方々とともに、連携して子どもたちの心を育てていこうとすることができるようにする。
- 1、2年生は生活科体験学習、3~6年生は校外学習や宿泊体験学習を行い、系統立てて内容を考え、子どもたちが主体的に活動することができるように支援していく。こうした活動を通して、互いのよさを認め合い、高め合おうとすることのよさを実感できるようにしていく。

下半期

- 人権週間では、福祉教室に取り組み、縦割り活動の一つにしているスマイル班会議でテーマにそって話し合ったりする。
- 福祉教室では体の不自由な方の話などを聞いたり、地域の方々とのふれあったりするなどの体験を通して、子どもたちが、すべての人が支え合い、認め合いながら生きていくという心情と実践的態度を育成する。
- ホームページなどでは、子どもたちの「ふれあい」を通じた声を掲載し、地域・家庭の方々とともに、連携して子どもたちの心を育てていこうとすることができるようにする。
- スマイル班活動(縦割り活動)を充実させる。運動会、全校遠足、スマイル班活動を通して、6年生が中心に主体的に活動することによって、互いのふれあい(思いやり)を深めるとともに、自信をもって自分のよさを出すことができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①家庭と連携して、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、保健教育を行う。 ②学校保健委員会での発表や話し合いを通して、生活習慣を見直そうという気持ちを高める。 ③カード等を活用して体力アップ遊びや長縄大会などに主体的に参加し、体力向上を図る。
担当	体力向上委員会

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
横浜市体力・運動能力調査の結果から、50m走は市の平均であるが、20mシャトルランが市の平均を下回っている。特に高学年になるにつれ大きく差が開いている。このことから、児童の体力低下が心配される。
姿勢の保持ができない児童や、生活習慣の中でも不規則な睡眠が気になる児童が増えてきている。

(2)これまでの学校の取組状況
○体育科では、体づくり運動(遊び)の指導において様々な運動を経験するようにし、体の柔軟性を高めることができるようになってきた。
○体育委員会が中心になってドッジボール大会や長縄大会、体力アップビンゴ(外遊び)など、児童の意見を反映させた取組を実施してきた。
○保健領域において、朝食、姿勢の大切さを指導してきた。

今年度の目標

○休み時間に校庭で遊ぶ児童の数を増やし、体力の向上を図る。
○児童一人一人が自身の生活を見直し、規則正しい生活をしようという意識を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 運動を通して自分の思いや考えを表現できる力を育成するために、体育科の授業でiPadや学習カードでロイロノートを使ったり、お互いにアドバイスし合ったりできる活動を取り入れる。
- 楽しみながら体力の向上を図れるように、中休みやロング屋休みに体育委員会を中心に外遊びの企画を運営する。
- 運動を通して自分の成長や友達やクラスの成長が実感できるように、体育委員会が中心になり、長縄大会を前期に1回実施する。
- 学校保健委員会の取組として、生活習慣、特に睡眠について問題提起をし、児童それぞれが、自身の生活を見直すようにする。

下半期

- 運動を通して自分の思いや考えを表現できる力を育成するために、体育科の授業でiPadや学習カードでロイロノートを活用する。また、お互いにアドバイスし合ったり、自分の活動の振り返りをしたりして、自身の力を知り、体力向上のためにできる活動を取り入れようとする意識を高める。
- 楽しみながら体力の向上を図れるように、中休みやロング屋休みに体育委員会を中心に外遊びの企画を運営する。
- 運動を通して自分の成長や友達やクラスの成長が実感できるように、体育委員会が中心になり、長縄大会を後期に1回実施する。
- 第2回学校保健委員会までの期間、実態に応じて睡眠について学級で考える機会を設定し、家庭と連携して改善方法を実践する。